

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2024. 8
No.372

「イナテックお掃除」について

(イナテック企業理念の浸透)

去る7月30日の運営委員会にて人事総務部より「イナテックお掃除」について説明がありました。

これまでイナテックでは「お掃除」と「清掃」の違いについて議論もせず定義があいまいなまま「朝の20分間清掃」として20年くらい前から実施してまいりました。

時代と共に人が変わり、コロナ禍など幾多の事象が起こり、振り返ると「朝の20分間清掃」のやり方や考え方がバラバラになっていることに気づきました。

そこで今年から、2S・企業理念推進担当として山本社長付に「朝の20分間清掃」を「朝の20分間お掃除」として見直していた

だき、イナテック企業理念がより浸透するよう考えていただくことにしました。

そしてもう一度イナテックの企業理念について課長職以上のメンバーで考えようと、『企業理念を共に学ぶ会(理念共学会)』を立ち上げ、半年ほど議論を重ねてきました。

「お掃除」と「清掃」の定義

理念共学会の第一歩として「お掃除」と「清掃」の違いを議論し、定義化をしました。

・「お掃除」とは

心を磨く行為であり、朝の20分間の活用を中心に全社員で取り組む活動

・「清掃」とは

朝の20分間お掃除とは別の時間枠を使い品質向上や設備保全を目的とする活動

(※製造部は、毎週月曜 8:05～9:00を「清掃」の時間として品質向上や設備保全の目的で使う)

イナテック「お掃除」の目的

「朝の20分間お掃除」は綺麗にすることが目的ではありません。

・仲間への思いやり、仲間を想う心を養う
(利他の心)

・自分自身の心の雑草を取り除き、磨かれた心を醸成する(自利の心)

つまり社員の皆さんに、お掃除を通して「気づく人」になつてほしいということです。

利他の心

自分ひとりでは何もできない。これが人間の世界なのです。人様のお世話になっている、自然界のお世話になっている、だからこそ自分以外の人や自然界に感謝し、自分ができることをするのです。

自利の心

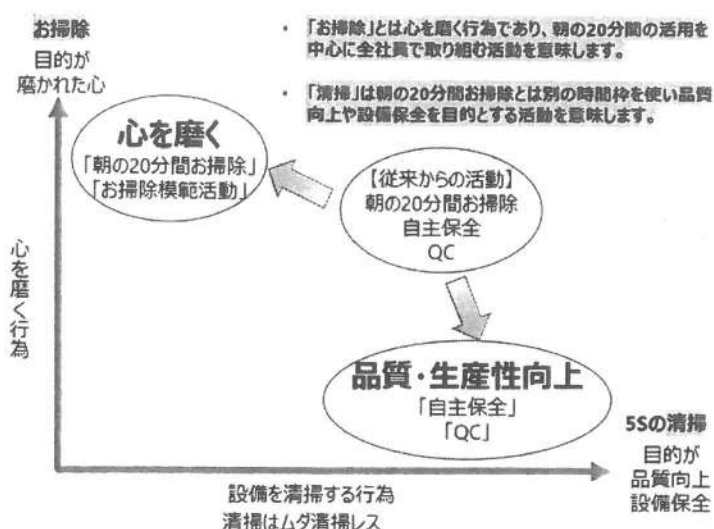
人間誰しも「やりたくない」「めんどうくない」「手を抜きたい」「暑い、やだな」「汚れる、やだな」「くさい、へどが出る」など

と思うことがあります。(このように思うことが「心の雑草」なのです。

それら「心の雑草」を抜く、つまり一つでもやってみる、一つでもやり抜いてみせる、それが自分の「心を磨く」ことなのです。いつでもすべて出来るわけがありません。まずは「心の雑草」に気づくことが大切なのです。

その数が多くなり、自然に出来るようになった状態が、企業理念でいう『磨かれた心』だと思っています。

だから「お掃除」をするのです。



掃除で社風が変わった

(鍵山秀三郎『掃除道』より)

お掃除をして環境をきれいにしますと、職場の雰囲気は穏やかになります。穏やかな環境は、心の荒みをなくし、怒りを抑える効果があります。

磨くことで「身につくもの」

(光明寺住職 松本紹圭 氏)

床やものを磨くことは、そんなふうには、心の状態を世界に映して確認できるのと同時に、環境を磨き整えることで、しるべき本来のところへ心を納めるという作法も身に付きます。

磨き上げたと思った瞬間から汚れが積もり始めるのは、心も同じ。過去への執着や未来への不安を手放し、今というこの瞬間に集中する修行のような気持ちで掃除を行ないましょう。心を映す鏡を磨くような気持ちで、床磨きをされてみてはいかがでしょうか。

お掃除は「やらせていただく」が基本

この9月から実施する「朝の20分間お掃除」は、間接部署に所属する方々が製造現場をお手伝いすることがポイントのひとつです。その時の心の持ちようとして、「製造の生産現場のお掃除をさせていただく」と考える「自分磨き」に通じ、自分が成長する(自利の心)わけです。

その結果、製造現場がきれいになり、職場の雰囲気が穏やかになる(利他の心)。この循環が社員の皆さんの「徳性が磨き上げられ、人格を高めること」になります。イナテックをそんな集団にしたいというのが私の願いであり、皆さんの願いであってほしいと思います。もっと企業理念について議論をし、もっと分かりやすい言葉で表現し、皆さんと共に成長したいと思っております。もっといい会社にしよう！

菜根譚後集 一〇三

以幻迹言、無論功名富貴、即肢體亦屬委形。以真境言、無論父母兄弟、即萬物皆吾一體。人能看得破、認得真、纔可任天下之負擔、亦可脫世間之羈鎖。

仮りまぼろしの世界によって言えば、功名や富貴はいうまでもなく、この吾が肉体でも仮りのものである。しかし、真実在の世界によって言えば、吾が肉親の父母や兄弟はいうまでもなく、この天地間の万物でも皆我と一体のものである。そこで、この世界が仮りのものであることを見破り、真実在の世界で万物は一体であることがわかった人であって、初めて天下の重任を負うことができる。また、世間一般の束縛から抜け出ることができる。